

伊勢市中心市街地活性化基本計画について

1 第 2 期基本計画の概要（計画期間：令和 3 年度～令和 7 年度）

中心市街地における、かつてのにぎわいを取り戻すために、平成 28 年度から第 1 期基本計画に基づき官民連携して事業に取り組んだ結果、一部ではにぎわいが創出された。

このにぎわいを更に区域全体へ広げていくために、令和 3 年度からの第 2 期基本計画を策定し、商業における雇用機会の改善対策、中心市街地での居住人口対策、歴史・文化を活用した観光対策を中心に、住民と来訪者に「選ばれるまちづくり」を進めている。

2 最終フォローアップの概要

総理大臣の認定を受けた基本計画は、計画期間の終了に伴い、これまでの取り組みの成果や目標の達成状況を総括する最終フォローアップの実施が必須事項となっている。

中心市街地活性化協議会と連携して、計画全体の定量的な評価および定性的な分析を行うことで、施策の目標達成状況やその効果を客観的に検証し、その結果を次期計画や今後のまちづくり施策へ活用することを目指している。

3 計画期間終了後の市街地の概況

第 2 期計画期間においては、「伊勢市駅前 C 地区第一種市街地再開発事業」の竣工や、「伊勢市健康福祉ステーション」の供用開始、宮後 1 丁目 1 号線・宮後浦口線の整備などにより、都市機能の更新が図られた。商店街では、関係者の働きかけによる空き店舗の活用などにより、新規出店を促した。

また、令和 7 年度から第 63 回神宮式年遷宮の諸祭・諸行事が始まったことに加え、メディア露出が増加し来訪者の関心が高まったことで、観光客数や宿泊者数が新型コロナウイルス感染症の影響前を上回る水準まで回復した。居住面では再開発による入居促進や移住・創業支援により、社会増減が改善傾向を示すなど、中心市街地活性化の兆しが見られる。

4 目標指標に対する調査結果

【達成状況の評価】

A：目標達成 B：基準値達成 C：基準値に及ばない

(B1：基準値から目標値までの幅の8割ラインを超え関連事業等は予定通り進捗・完了)

	①目標	②目標指標	③基準値	④目標値	⑤基準値から目標値までの幅の8割ライン	⑥最新値	⑦達成状況
1	商業の活性化とまちなか回遊性の向上	商店街等の歩行者通行量	3,943人 (H30年度)	4,140人 (R7年度)	4,100人	3,204人※ (R7年度)	C
		商店街の新規出店数	50店舗 (H27～R元合計)	55店舗 (R3～R7合計)	54店舗	55店舗 (R3～R7合計)	A
2	都市機能の強化と活発な地域活動によるまちなか居住の促進	中心市街地の居住人口の社会増減	△177人 (H27～R元合計)	±0人 (R3～R7合計)	△35人	△14人 (R3～R7合計)	B1
3	観光の取組による中心市街地のにぎわい向上	観光関連施設等の利用者数	49,337人 (H27～R元年 平均値)	53,300人 (R7年)	52,507人	54,213人 (R7年)	A

※歩行者通行量調査実施日の気温が低かったことから通行量が減少したが、A1カメラによる調査結果では伊勢市駅周辺の土日祝日（約120日間）の1日平均歩行者通行量は、令和4年度2,075人に対し令和7年度は2,985人と約1.4倍に増加した。また、伊勢市駅前地区の交流拠点では開業以降多数の利用者が訪れており、賑わいが創出されている。

令和 7 年度 伊勢市中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

令和 8 年 5 月
 伊勢市（三重県）

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月(5 年)

1. 計画期間終了後の市街地の概況

第 2 期計画期間（令和 3 年度～令和 7 年度）において、本市は「働きやすく、暮らしやすい、歴史と文化を感じる 伊勢のまち」をビジョンに掲げ、46 の活性化事業に取り組んできた。本計画の核である「伊勢市駅前 C 地区第一種市街地再開発事業」が令和 8 年 2 月に竣工し、分譲マンション（102 戸）と 1 階商業施設が整備された。これに先行して令和 4 年 3 月に供用を開始した伊勢市駅前 B 地区第一種市街地再開発事業による複合施設や、令和 5 年 5 月にオープンした市の福祉拠点「伊勢市健康福祉ステーション」による駅前周辺の都市機能が大幅に更新され、宮後 1 丁目 1 号線や宮後浦口線といった道路再整備の完了により、快適な道路空間が確保された。また、商店街関係者の積極的な働きかけにより、商店街の空き店舗を活用した出店が相次ぐなど、一定の効果が見受けられる。

計画前半は新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントの中止など人流を抑制されたが、同感染症の 5 類移行後は「高柳の夜店」や「伊勢の夜祭」等のイベントの再開により賑わいが回復し、また、令和 7 年度から第 63 回神宮式年遷宮の諸祭・諸行事が始まり、観光客数や宿泊者数は同感染症の影響前を上回る水準まで回復している。

居住面では、少子高齢化が加速する厳しい状況にあるものの、再開発による賃貸・分譲マンションへの入居や移住創業支援により、社会増減の幅は計画初期と比較して改善傾向にある。商業面では、商店街による店舗所有者への積極的な働きかけにより「貸せる空き店舗」が創出され、新規出店数が目標値の年平均値を上回る年が見られるなど活性化の兆しが見られる。一方で、後継者不足による店舗の廃業も続いており、今後は事業承継支援と日常的な賑わいの創出が継続的な課題となっている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 地価 (単位：円/㎡)

	令和 2 年度 (計画前年度)	令和 3 年度 (1 年目)	令和 4 年度 (2 年目)	令和 5 年度 (3 年目)	令和 6 年度 (4 年目)	令和 7 年度 (5 年目)
中心市街地内 商業地域 (一之木 2 丁 目 2280 番)	50,500	49,400	48,500	48,000	47,700	47,400
中心市街地内 商業地域 (本町 426 番 2)	142,000	142,000	142,000	142,000	143,000	144,000
中心市街地隣接 第一種住居地域 (常磐 1 丁目 1160 番)	49,400	48,700	48,200	47,800	47,800	47,900
中心市街地隣接 近隣商業地域 (岩淵 1 丁目 712 番)	70,500	69,600	68,900	68,500	68,500	68,700

2. 計画した事業等は予定通り進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ①概ね予定通り進捗・完了した ②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

- ①活性化した
②若干活性化した
③計画策定時と変化なし
④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2における選択肢の理由)

本計画に位置付けた 46 事業は、主要事業を中心に遅滞なく実施した。ハード事業では「伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業」の竣工（令和8年2月）や、「宮後1丁目1号線」「宮後浦口線」の道路整備完了など、都市基盤の更新を計画通り実施し、ソフト事業においても、商店街によるイベントの再開や、創業支援補助金の継続的な運用がなされており、「概ね予定通り進捗・完了した」と言える。

商店街の新規出店数は累計 55 店舗に達し、目標値（55 店舗）を達成した。特に計画期間後半には、商店街関係者の働きかけにより「貸せる空き店舗」が増加し、新規出店の増加に繋がった。

観光関連施設等の利用者数は 54,213 人（R7 年度）となり、目標（53,300 人）を達成した。参考指標である宿泊者数も 447,569 人（R7 年度）と基準値から大幅に増加し、メディアでの露出が増加するなどの遷宮に向けた機運醸成が賑わい創出に寄与したと考えられる。

少子高齢化による自然減は続いているが、社会増減はマイナス 14 人と、基準値（マイナス 177 人）から大幅に改善した。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

第2期計画では年2回の協議会など定期的な意見交換の場を通じて、官民が密接な連携を行い各事業に取り組むことができた。

ハード面では「伊勢市駅前C地区市街地再開発事業」が計画通り竣工し、ソフト面でも商店街による積極的な空き店舗対策により、新規出店数が累計55店舗と目標を達成したことは、まちなかの機能更新と賑わいの維持に一定の成果があったと認識している。また、市民アンケートにおいても半数以上が活性化を肯定的に捉えており、着実に効果が浸透していると考えている。

一方で、歩行者通行量については目標値および基準値を大きく下回る結果となった。これは区域の核となる病院や店舗の移転による人流の変化や、再開発ビルの商業施設が稼働前であったこと、また天候等の外部要因も影響しているが、依然としてエリア全体の回遊性向上が大きな課題として残されている。

協議会としては、第3期計画に向け、整備された都市基盤を最大限に活用する「まちなかウォークアブル」の推進や、AIカメラを用いた客観的データに基づく戦略的な出店誘致、販促活動の充実が必要と考えている。また、区域内の店舗数の維持を図るため引き続き事業承継等の支援を実施するとともに、第63回神宮式年遷宮を見据えた宿泊客の夜間周遊促進など、各主体間の連携をさらに深め、持続可能なまちづくりの実現を後押ししていく。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

伊勢市の中心市街地に関する市民アンケートを実施し、基本計画に基づく取り組みについて、市民意識の変化や市民ニーズについて分析した。

計画の開始前と比較して、「かなり活性化した」が6%、「少し活性化した」が45%となっており、半数以上の人为中心市街地の活性化に対して肯定的な評価をしている。

年代別集計でみると、20歳代は若干肯定的な評価が低かったものの、幅広い年代が活性化の変化を感じていると推測される。

□調査の実施概要

調査対象	伊勢市内在住の16歳以上の市民3,300人（無作為抽出）
調査方法	郵送又はインターネット回答
回答票数	1,228人（回答率：37.2%）
実施期間	令和7年8月25日～令和7年9月14日

平成 27 年度に伊勢市中心市街地活性化基本計画を策定し、平成 28 年度から中心市街地の活性化に取り組んでいます。計画を策定した平成 27 年度以降で、中心市街地は活性化したと感じていますか。（1つに○）

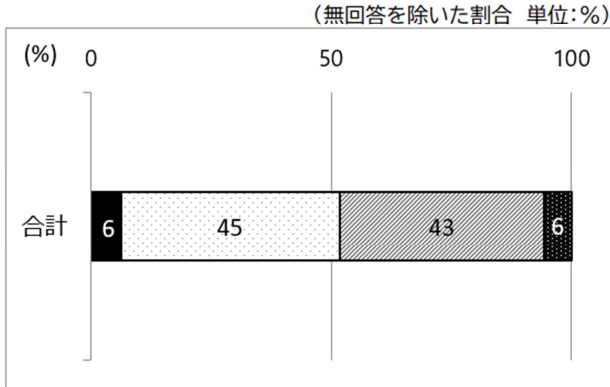
■ 1. かなり活性化した

▨ 2. 少し活性化した

▩ 3. 変化していない

■ 4. 悪化した

○単純集計

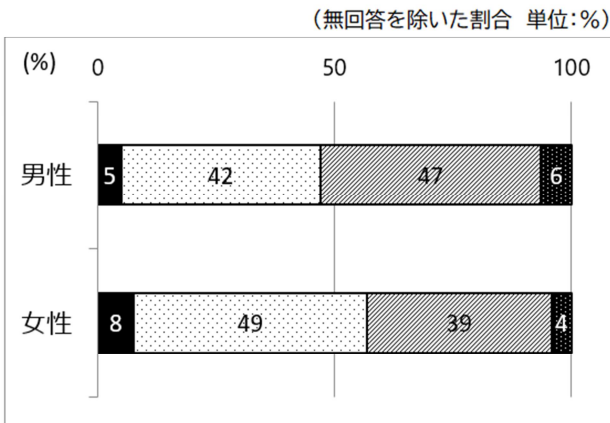


「2.少し活性化した」の割合が高く、「1.かなり活性化した」と合わせると50%を超えており、半数以上がまちの変化を肯定的に捉えている。

(単位:人)

回答	1	2	3	4	無回答	合計
回答者数	49	358	336	44	36	823

○男女別集計

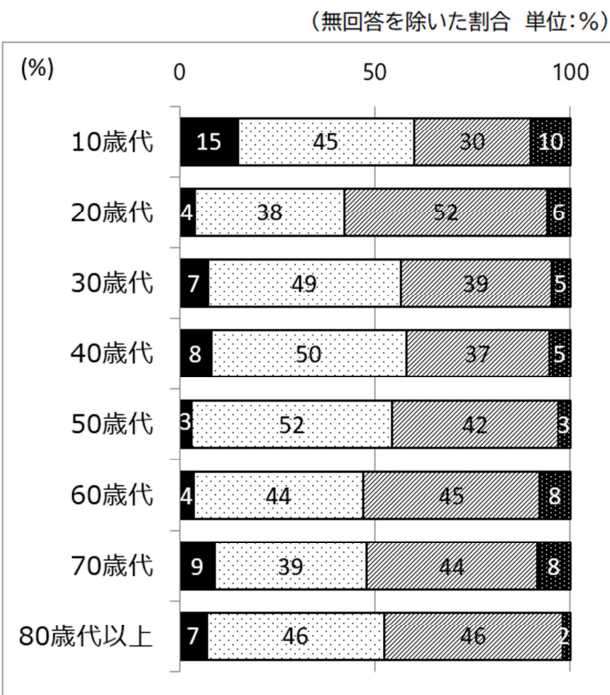


男女ともに一定の成果を実感しており、特に女性は「2.少し活性化した」の割合が高く、変化が浸透している。

(単位:人)

回答	1	2	3	4	無回答	合計
男性	19	159	177	24	15	394
女性	30	192	153	16	20	411
無回答	0	7	6	4	1	18
合計	49	358	336	44	36	823

○年代別集計



20代を除く全世代で「1.かなり活性化した」と「2.少し活性化した」の合計が約半数となっており、幅広い年代が活性化を感じている。

(単位:人)

回答	1	2	3	4	無回答	合計
10歳代	3	9	6	2	1	21
20歳代	2	20	27	3	0	52
30歳代	6	41	32	4	2	85
40歳代	9	56	41	6	0	112
50歳代	4	68	56	4	1	133
60歳代	5	62	64	11	5	147
70歳代	13	56	63	12	10	154
80歳代以上	7	46	46	2	17	118
合計	49	358	335	44	36	822

6. 今後の取組

第2期計画では、「伊勢市駅前C地区再開発事業」の推進や「宮後1丁目1号線」等の整備、商店街が主体となった空き店舗対策に取り組み、中心市街地の基盤整備や商業機能の維持に一定の成果を収めた。しかし、事業承継への対応や、変化する消費者ニーズを捉えた客観的データに基づく販促活動、居住人口の維持などの課題が残されている。これらを踏まえ、第3期計画では、これまでの取り組みをさらに発展させることが重要である。

第2期計画で成果が見られた空き店舗対策を継承しつつ、第3期計画からは通行量をAIカメラによるデータとすることで、客観的なデータに基づいた出店誘致や販促活動を展開するとともに、事業承継支援を継続し商業機能の維持を図る。

あわせて、再開発事業等により整備された都市機能を最大限に活用し、既存住宅の耐震化や空家バンク事業の積極的な情報発信による活用促進、さらには地域活動の活性化を通じて、多世代が安心して住み続けられる環境を整備し、まちなか居住の促進を図ります。

さらに、第63回神宮式年遷宮を見据え、増加する宿泊客をターゲットとしたスムーズな周遊案内や夜間の魅力創出事業を重点的に実施することで、参拝客の滞在・消費を促し、地域経済への波及効果の最大化を目指す。

これらの取り組みに当たっては、伊勢まちづくり株式会社等の関係機関と緊密に連携し、各施策を一体的かつ効果的に推進することで、『働きやすく、暮らしやすい、歴史と文化を感じる 伊勢のまち』の実現を図る。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
商業の活性化とまちなか回遊性の向上	歩行者通行量	3,943 人 (H30 年度)	4,140 人 (R7 年度)	4,100 人	3,204 人	R8.3	C
	新規出店数	50 店舗 (H27～R 元合計)	55 店舗 (R3～R7 合計)	54 店舗	55 店舗	R8.3 (R3～R7 合計)	A
	【参考指標】 中心市街地の 新規出店数	-	-	-	76 店舗	R8.3	-
	【参考指標】 中心市街地 区域内全体 店舗数	1,406 店舗 (R2 年度)	-	-	1,349 店舗	R8.3	-
都市機能の強化と活発な地域活動によるまちなか居住の促進	中心市街地の 居住人口の 社会増減の 促進	△177 人 (H27～R 元合計)	±0 人 (R3～R7 合計)	△35 人	△14 人	R8.3 (R3～R7 合計)	B1
観光の取組による中心市街地の賑わい向上	観光関連施設等の利用者数	49,337 人 (H27～R 元年平均 値)	53,300 人 (R7 年)	52,507 人	54,213 人	R8.3	A
	【参考指標】 中心市街地 内宿泊施設 の宿泊者数	322,900 人 (R 元年)	-	-	447,569 人	R8.3	-

<達成状況の分類>

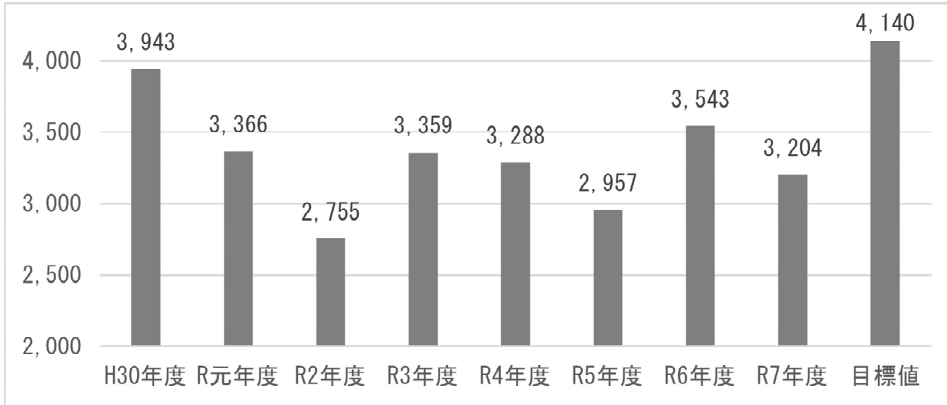
A	目標達成(関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)
a	目標達成(関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)
B1	基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている (関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)
b1	基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている (関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)
B2	基準値より改善しているが、基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない (関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)
b2	基準値より改善しているが、基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない (関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)
C	基準値に及ばない(関連する事業等は概ね予定どおり進捗・完了)
c	基準値に及ばない(関連する事業等は予定どおり進捗・完了しなかった)

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「商店街の歩行者通行量」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P76～P83 参照

●調査結果と分析



年度	(人/日)
H30	3,943 (基準値)
R元	3,366
R2	2,755
R3	3,359
R4	3,288
R5	2,957
R6	3,543
R7	3,204
R7	4,140 (目標値)

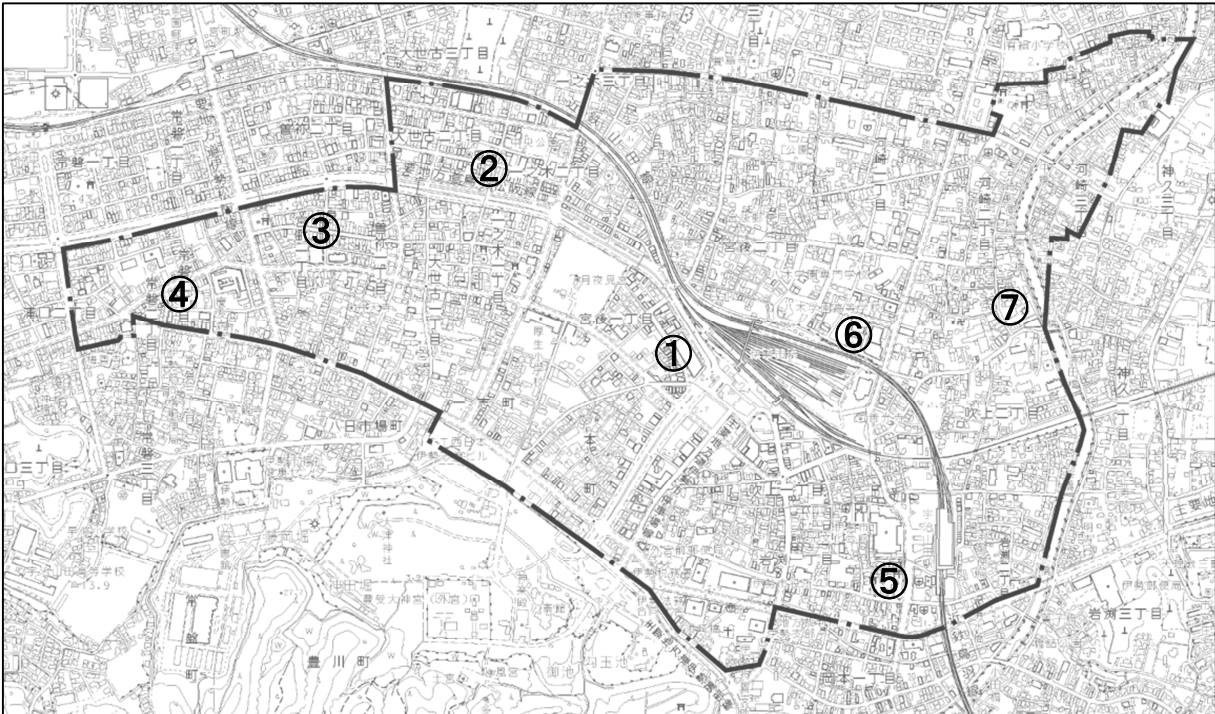
※調査方法：土曜日の9時～18時に中心市街地内の7地点を通過する歩行者及び自転車計測

※調査月：令和8年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域内の商店街に設けた5地点及び伊勢市駅以北の市道2地点の歩行者及び自転車の通行量

図 歩行者通行量の調査地点



① 伊勢市駅前商店街 中央	⑤ 明倫商店街 西
② 伊勢銀座新道商店街 中央	⑥ 市道北口線
③ 伊勢高柳商店街 中央	⑦ 市道外宮二見線
④ 浦之橋商店街 西	

歩行者通行量の調査結果

(単位:人)

	R2年度 (計画前年度)	R3年度 (1年目)	R4年度 (2年目)	R5年度 (3年目)	R6年度 (4年目)	R7年度 (5年目)
①伊勢市駅前商店街 中央	615	770	658	562	541	498
②伊勢銀座新道商店街 中央	424	498	504	514	648	548
③伊勢高柳商店街 中央	541	450	640	479	500	538
④浦之橋商店街 西	308	343	280	320	426	375
⑤明倫商店街 西	150	265	283	216	254	179
⑥市道北口線	433	712	592	528	746	734
⑦市道外宮二見線	284	321	331	338	428	332
合計	2,755	3,359	3,288	2,957	3,543	3,204

〈分析内容〉

歩行者通行量の最新値は3,204人となり、目標値(4,140人)及び基準値(3,943人)を下回る結果となった。

歩行者通行量が目標に届かなかった要因のひとつとして、調査時点において計画の核であるC地区再開発事業は予定通り竣工したものの、マンションへの入居開始間もないことや1階商業施設の営業開始には至っておらず、歩行者の増加に繋がっていないことが考えられる。また、区域内の中核病院の区域外移転に伴い人流に変化があり、移転後の用地に核となる商業施設が整備されたものの自動車での来訪が中心であり周辺商店街への回遊や歩行による波及効果に繋がらなかったことが考えられる。さらに、区域内全店舗数の減少もエリア全体の回遊力が低下の要因と考えられる。

加えて、本調査実施日は気温が低く風が強い天候条件であり、スギ花粉の飛散量も多かったことから、外出やまちなかでの滞在を控える心理が働き通行量が抑制されたという一時的な外部要因も影響したと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業(民間事業者)

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	伊勢市駅前地区の再開発事業により、商業・住宅などの都市機能の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(国土交通省)(令和2年度～令和7年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	歩行者通行量 【事業目標値】+230人 【最新値】-301人(目標未達成) 再開発ビルが立地している伊勢市駅前商店街の歩行者通行量は平成30年の799人から301人減少し、目標値を大きく下回っている。
達成した(出来なかった)理由	当該事業は当初の計画通りに進捗し、令和8年2月に分譲住宅が完成し、全戸が完売した。 通行量の計測が再開発ビル完成直後であるため、入居が進んでいないことが考えられるが、再開発により同地区の繁盛店が移転したことも要因の一つと考えている。
計画終了後の状況及び事業	「歩行者通行量」の目標指標には、同地区の減少が大きな影響を及ぼした。今後は住民の入居が進み、5店舗も順次開店するた

効果	め、目標指標に貢献していくことが期待される。
事業の今後について	当該事業は完了。

②. 宮後1丁目1号線整備事業（伊勢市）

事業実施期間	令和元年～令和6年度
事業概要	伊勢市駅を中心とした地域の道路を再整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 +32人 【最新値】 - 本事業は予定通り進捗し、令和6年度に整備が完了した。計画に基づき道路の高質化等を行い、目標達成のための基盤整備を完了した。
達成した（出来なかった）理由	目標指標の達成には至らなかったが、本事業により道路が高質化されたことで、商店街の雰囲気改善され、地域住民や来訪者が安心して歩きやすい空間へと変化したことが賑わい創出に寄与している。
計画終了後の状況及び事業効果	道路高質化により、従前より明るく開放的な景観が形成された。これにより歩行者が立ち寄りやすい雰囲気が醸成され、沿道店舗の利用促進や滞在時間の延長といった、集う場所としての機能強化に繋がっていると考えられる。
事業の今後について	本事業は完了したが、整備した高質な道路空間を活かし「まちなかウォークアブル」の推進に取り組み、歩行者が主役となる安全で快適な歩行環境を維持しつつ、沿道商店街が主体となったイベント開催等のソフト事業を展開することで、さらなる回遊性と賑わい創出を図る。

③. 宮後浦口線整備事業（伊勢市）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度
事業概要	伊勢銀座新道商店街の通りを景観に配慮した舗装に整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和3年～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 +40人 【最新値】 - 本事業は予定通り進捗し、令和5年度に整備が完了した。計画に基づき景観舗装や休憩施設の設置を行い、目標達成のための基盤整備を完了した
達成した（出来なかった）理由	目標指標の達成には至らなかったが、本事業により道路が高質化されたことで、商店街の雰囲気が改善され、地域住民や来訪者が安心して歩きやすい空間へと変化したことが賑わい創出に寄与している。
計画終了後の状況及び事業効果	景観に配慮した舗装や休憩施設の設置により、地域住民や来訪者が安心して歩行できる空間が形成された。また、休憩施設の活用等により、街歩きの途中で休息や交流が図られるなど、集う場所

	としての機能が強化されている。
事業の今後について	本事業は完了したが、整備した空間を活かし商店街が主体となってイベント開催等のソフト事業を実施することで、さらなる回遊性の向上や賑わいの創出を図る。

④. 公共交通機関とのタイアップキャンペーン事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	公共交通機関とタイアップし、旅行商品と連動させたポスター等を作成し、主要駅のポスター枠やデジタルサイネージ等に掲出する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】+230 人（他事業との合算）</p> <p>【最新値】－</p> <p>旅行商品販売実績（伊勢市駅周辺宿泊プラン等） 41,431 件/5 年</p> <p>特典クーポン引換実績 14,624 件/5 年</p> <p>東京駅等ポスター等掲出（東海旅客鉄道とのタイアップ） 毎年度 4～7 月頃・11 月～2 月頃の 2クール</p>
達成した（出来なかった）理由	販売実績等は新型コロナウイルス感染症の影響により一時落ち込み、同感染症の 5 類感染症移行後は回復傾向にあったものの、東海旅客鉄道の旅行商品販売方針の変更により、一部商品の販売実績が減少した。
計画終了後の状況及び事業効果	東海旅客鉄道とタイアップしたプロモーション及びクーポン事業などの実施により、駅を起点として中心市街地区域内への観光客の流入を促し、区域内の賑わい創出・活性化に寄与した。
事業の今後について	今後も継続して事業を推進するとともに、公共交通機関利用者を対象とした期間限定のキャンペーンを実施するほか、新幹線とのセット商品や着地型の旅行商品の拡充を行うことにより、区域内回遊及び滞在時間の延伸を図る。 なお、今後は東海旅客鉄道の主力である新幹線の利用促進により、関連する旅行商品の販売実績は増加する見込みである。

⑤. 着地型旅行商品造成事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 17 年度～【実施中】
事業概要	事業企画、旅行商品造成及びその販売促進を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】+230 人（他事業との合算）</p> <p>【最新値】－</p> <p>旅行商品販売実績（伊勢市駅周辺店舗クーポン等） 91,068 件/5 年</p>
達成した（出来なかった）理由	旅行商品の販売実績について、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ時期もあったが、旅行需要が回復したこともあり、新型コロナウイルス感染症の影響前の水準に戻ってきている。

計画終了後の状況及び事業効果	クーポンなどにより中心市街地区域内へ誘導することで、滞在時間の延伸に繋がった。
事業の今後について	今後も継続して事業を推進するとともに、遷宮をキーワードとした伊勢の歴史文化の意義理解に繋がるような旅行商品を造成し、区域内回遊及び滞在時間の延伸を図る。

⑥. 文化資源保存活用事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	「伊勢市全市博物館構想」に基づき、市全体を大きな博物館として捉え、全域に広がる博物館や自然・文化資産などを相互に連携させて有効活用を図る。各施設における企画展示や催し物の開催、季節に応じた見どころなどの情報発信、郷土資料館の整備などにより、誘客を図り、賑わいを創出するものであり、中心市街地の活性化に必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月） 中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和 6 年度～令和 7 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 230 人（他事業と合算） 【最新値】 — 無料入館チケット利用数 979 件/2 年 ※対象施設：賓日館、伊勢河崎商人館、尾崎罌堂記念館 事業実施期間：令和 6 年 2 月～令和 8 年 3 月 博物館スタンプラリー利用数 163 件/5 年 伊勢市歴史博物館整備 令和 7 年度～令和 8 年度 (令和 8 年 4 月 25 日開館予定)
達成した（出来なかった）理由	各施設の入館者は、新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行後は回復傾向にあるが、それ以前の水準には至っていない。また、無料チケットの配布や博物館スタンプラリーにおいてデジタル技術を活用したが、周知方法や利用フローの利便性向上に課題が残り、期待した効果を十分に発揮するには至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	博物館の VR 化によって、新規層の開拓及び体験の高度化を推進し、リピーターの確保に向けた基盤を整備した。 また、新たに整備した博物館では、デジタル技術を活用した没入展示や収蔵資料のデータ公開を通じて、来訪者の目的地となる魅力的な体験を提供するとともに、文化振興と観光情報の発信を両立する、中心市街地の新たな回遊拠点としての機能を確立させた。
事業の今後について	各博物館施設において、市民等に関心の高い催しの企画や、子供の施設利用を促す企画等、来館者の増加に繋がる取り組みを進めていく。 令和 8 年 4 月開館の伊勢市歴史博物館を中心に、文化観光の取り組みを進め、市民や観光客の周遊を促す。

⑦. 商店街等振興対策事業（伊勢市、伊勢まちづくり株式会社）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	消費者に魅力ある商店街づくりのために行う事業に対して補助をする。また、中心市街地において商店街等が行うイベント等を、伊勢まちづくり株式会社が情報発信する。さらに、商店街等における歩行者通行量調査について、AIカメラを活用した実証実験を行い、得られたデータを分析活用するとともに、その効果を検証する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】+230人（他事業と合算） 【最新値】－ 商店街等が実施するイベント事業等に対する「商業まちづくり補助金」の5年間の交付実績は、新規7件、継続10件であった。AIカメラ事業については、4箇所（伊勢市駅前、外宮参道、高柳、新道）で歩行者通行量を計測し、データを毎月、各商店街と共有、通常時及びイベント開催時の歩行者通行量や年齢層、性別などのデータを収集・分析して商業活性化に向けた検討材料として活用した。
達成した（出来なかった）理由	補助金の利用件数が年々減少している原因には、商店街組織の弱体化、財務状況の悪化があるが、AIカメラ事業によって歩行者通行量が詳細に数値化され、事業再編により費用対効果の低いイベントの廃止などが進んだことも要因の一つと考えている。
計画終了後の状況及び事業効果	「歩行者通行量」の目標指標には、イベントの再編によるイベント件数の減少が少なからず影響したと考えている。一方、「新規出店数」の目標指標には大きな影響を与えなかった。しかし、AIカメラ事業によるイベント効果の「見える化」によって商店街の意識改革は進んでいると考えている。
事業の今後について	当該事業は今後も継続するが、効果を検証する中で補助金要件の見直しを行い、商店街が進める「消費者に魅力ある商店街づくり」を支援する。

⑧. まちなか案内事業（伊勢商工会議所ほか）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	お伊勢さん観光案内人（商工会議所事業）、お伊勢さんまち歩きクーポン（まちづくり会社）等、地元住民から観光客まで、まちなかを案内するサービスを提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】+230人（他事業と合算） 【最新値】－ 令和7年度のお伊勢さん観光案内人利用者数は9,388人となり、第1期計画時の平均17,278人を大きく下回った。
達成した（出来なかった）理由	お伊勢さん観光案内人利用者数の減少は、集金拠点の問題から一部案内が再開できなかったことが原因である。また、お伊勢さんまち歩きクーポン（お伊勢さんまち歩きチケット）はデジタル化したのが、新たなユーザー層の取り込みには至ら

	ず、中心市街地内にある歴史的資源・観光資源に関する情報も案内できなかつた。じゃらん等の旅行代理店での販売が不可能となり、サービスの周知が進まなかつたことが原因である。
計画終了後の状況及び事業効果	お伊勢さん観光案内人事業は、利用者の減少から目標指標達成に貢献できなかつた。しかし、令和7年度からはオンライン決済システムの導入によって回復基調にあり、事業自体の業務効率化は進み、利便性は向上している。
事業の今後について	最新の需要を踏まえた事業計画の見直しにより、「中心市街地情報の案内」としての事業は終了し、「まちなか誘客事業」として継続することで利用者の中心市街地への誘客を図っていく。

⑨. 河崎まちなみ魅力創出事業（伊勢河崎まちづくり衆ほか）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	かつて問屋街として栄えた河崎地区にて、登録有形文化財の伊勢河崎商人館の活用(だいどこ市、商人市ほか)や、勢田川を活用した事業の実施、さらに地区内の歴史的空町家・空蔵等の活用を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】+230人（他事業と合算） 【最新値】－ 空町家・空蔵の活用促進として観光庁の高付加価値化事業の採択を受けた分散型ホテル事業は、地区内の空町家・空蔵6棟の改修により客室8室整備した。同ホテルの宿泊者によって歩行者通行量が増加すると見込んでいたが、当地区の歩行者通行量の最新値は332人と平成30年度の474人より142人減少した。
達成した（出来なかつた）理由	ホテルの稼働率は約70～80%で推移しており、宿泊客による通行量増加があるものの、伊勢河崎商人館への来場者数が減少しており歩行者通行量減少の要因のひとつであると考えている。
計画終了後の状況及び事業効果	「歩行者通行量」の目標指標には、同地区の減少が影響を及ぼした。しかし、分散型ホテルの開業時に「伊勢河崎まちづくり株式会社」を設立し、ホテルを中心に河崎地区の価値向上、ホテル周辺の新規出店に繋がっている。
事業の今後について	伊勢河崎まちづくり株式会社による分散型ホテルの安定した運営を図り、並行して協力事業者や町家所有者と協議を進め、さらなる空町家・空蔵の活用や、客室の追加整備を検討し、賑わいの創出を図る。

⑩. 伊勢市駅前商店街活性化事業（伊勢市駅前商店街振興組合）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	組合活動と商店街地区活性化のため、組合の既存ビジョン・プランの更新、市街地再開発事業の事業者との連携を継続することで、伊勢市駅前の新たな賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】+80人（しんみち未来創造事業と合算） 【最新値】－317人（目標未達成）

成状況	歩行者通行量の最新値は当商店街で498人、新道商店街で548人の合計1,046人となり、平成30年度の2商店街の合計歩行者通行量1,363人から317人減少した。また、当商店街単体では301人減少している。
達成した（出来なかった）理由	歩行者通行量の減少は繁盛店の移転、及び月夜見宮からの参拝者の誘客が進まなかったことが原因であると考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	「歩行者通行量」の目標指標には、当商店街の減少が影響を与え、目標達成には至らなかった。一方、「新規出店数」の目標指標には、当商店街の17店舗の出店が大きく貢献し、目標達成したと考えられる。 また、伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業と合わせて「まちなかウォークアブル事業」などを中心に活動を行い、商店街の魅力向上に努めた結果、当商店街のAIカメラによる年間歩行者通行量は、夜の通行量を中心に増加傾向にあることから、当商店街の活性化は進んでいると考えられる。
事業の今後について	まちなかウォークアブル事業を継続して進めていくため、パークレットの増設や新規イベントの開催により、さらなる歩行者通行量の増加に努めていく。

⑪. しんみち未来創造事業（伊勢銀座新道商店街振興組合）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	商店街の将来像を定めた既存ビジョンの更新、またこれに基づいた組合事業を継続し、複数ある空き店舗の削減、来客数の増加を目指し、商店街の魅力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】+80人（伊勢市駅前商店街活性化事業と合算） 【最新値】-317人（目標未達成） 歩行者通行量の最新値は当商店街で548人、伊勢市駅前商店街で498人の合計1,046人となり、平成30年度の2商店街の合計歩行者通行量1,363人から317人減少した。しかし、当商店街単体では16人減少に留まっている。
達成した（出来なかった）理由	当商店街が3年間継続してきたイルミネーション事業を終了し、歩行者通行量の大幅な減少を予想していたが、地元高校生と連携した既存事業のスケールアップによって、微減に留めることができたと考えている。
計画終了後の状況及び事業効果	「歩行者通行量」の目標指標には、当商店街の減少が少なからず影響を与え、目標達成には至らなかった。 しかし、AIカメラによる歩行者通行量データの活用によりイベントの費用対効果を検証し事業の再構築を進めた結果、夜間における若年層の通行量が増加するなど、中心市街地の活性化に寄与したと考えている。
事業の今後について	「伊勢新道しんみち商店街未来ビジョン」を更新し、商店街の魅

ついて	力向上のための新たな事業を計画し、人が集い、憩える空間を確保し賑わいを創出していく。
-----	--

⑫. 繋ぐ高柳希望の風事業（伊勢高柳商店街振興組合）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	平成 30 年に発生した商店街中心部の火災事故跡地である被災空地の利活用を主として作成した商店街ビジョンをもとに、被災空地活用の事業検討、減少する組合員数、増える空き店舗等の課題へ取り組み、100 年以上の歴史を持つ商店街を次世紀へと繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 +230 人（他事業と合算） 【最新値】 - 歩行者通行量の最新値は当商店街で 538 人となり、平成 30 年度の歩行者通行量 657 人から 119 人減少した。
達成した（出来なかった）理由	当商店街に隣接するスーパーの令和 6 年のリニューアルオープンにより、同スーパーの駐車場が大幅に拡大したことから、これまで当商店街を通過していた人流に変化を及ぼし、歩行者通行量の減少に繋がったと考えている。
計画終了後の状況及び事業効果	「歩行者通行量」の目標指標には、当商店街の減少が影響を与え、目標達成には至らなかった。当商店街は、商店街所有地と複数ある空き店舗を利活用し、多種多様なイベントを民間団体の協力を得ながら継続的に実施しているが、イベント時の一過性の通行量増加に留まり、日常の通行量増加には繋がっていない。
事業の今後について	商店街の歴史を繋ぐべく、「高柳の夜店」を継続して開催するほか、居心地が良く歩きたくなるまちづくりを目指す「まちなかウォークブル」を進めるため、商店街所有地と隣接する公園の一体的な活用を目的とした整備を進め歩行者通行量の増加に努めていく。

●今後の対策

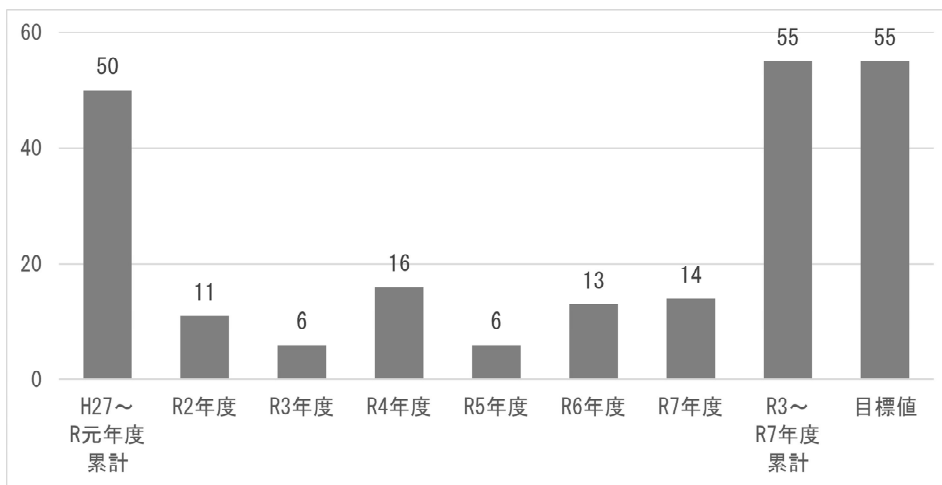
今後は、竣工した C 地区再開発ビルの商業施設への早期開業を促進し、新たな来街者の獲得を図る。また、宮後 1 丁目 1 号線などで、「まちなかウォークブル推進事業」により、滞在を促す拠点を段階的に整備し利活用を促す取り組みにより、「居心地が良く歩きたくなる」空間を創出する。また、近隣で新規開業予定の宿泊施設利用者を商店街へと誘導する周遊ルートの確立により、歩行者通行量の増加と賑わいの創出を図る。

なお、年 1 回の手観測による調査は天候等の要因によりデータが大きく左右され正確性に欠けるという課題がある。このため、第 3 期計画では、AI カメラによる連続計測データを用いた「日平均通行量」を目標指標とし、データの精度と客観性を高める。また、従来の手観測についても多角的な分析を行うための参考資料として年複数回の調査を継続する。

(2) 「新規出店数」 (目標の達成状況【 A 】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P83～P85 参照

●調査結果と分析



年度	(%)
H27～R元	50 (基準値)
R2	11
R3	6
R4	16
R5	6
R6	13
R7	14
R3～R7	55 (累計)
R3～R7	55 (目標値)

※調査方法：現地確認及び商店街振興組合へ聞き取り

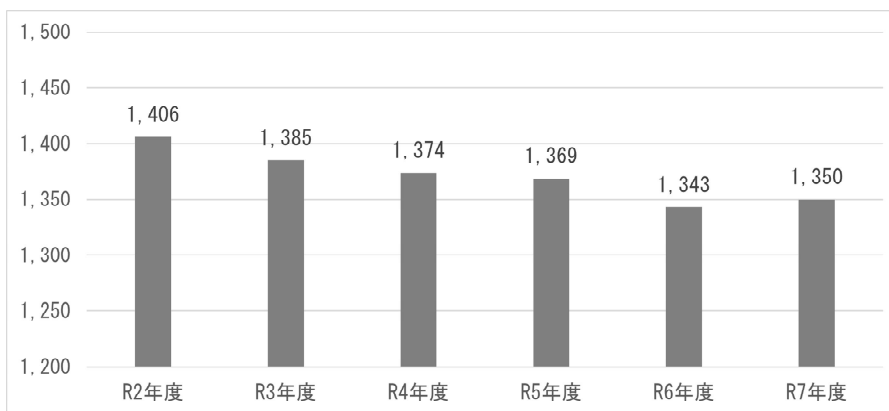
※調査月：令和8年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域内の5つの商店街

【参考指標】中心市街地活性化区域内全体店舗数

※参考指標の考え方は認定基本計画 P85 参照



年度	(店舗)
R2	1,406
R3	1,385
R4	1,374
R5	1,369
R6	1,343
R7	1,350

〈分析内容〉

計画期間 (R3～R7 年度) の累計新規出店数は 55 店舗となり、目標値 (55 店舗) を達成した。

創業支援や空き店舗対策支援事業などの継続的な実施に加え、商店街関係者の店舗所有者への積極的な働きかけにより「貸せる空き店舗」を掘り起こし、出店意欲を持つ事業者の参入を促した。また、核となる商業施設の開業が商業環境に影響を与え、その周辺における新規出店を促した。

一方で、後継者不在等の理由による廃業意向を持つ店舗も多く、区域内全体の店舗数の維持が依然として課題となっている。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業【再掲】（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	伊勢市駅前地区の再開発事業により、商業・住宅などの都市機能の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和2年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	新規出店数 【事業目標値】3店舗/5年 【最新値】0店舗/5年（目標未達成） 新規出店数は最新値では0店舗となっており、目標値を下回っている。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画通りに進捗し、令和8年2月に分譲住宅が完成し、全戸が完売した。 新規出店については、1階の5店舗スペースの出店者は決定しているが、開店が間に合っていないためである。
計画終了後の状況及び事業効果	「新規出店数」の目標指標には、店舗開店が間に合わず貢献できなかった。 今後は、5店舗も順次開店するため、目標指標に貢献していくことが期待される。
事業の今後について	当該事業は完了。

②. 創業支援事業（伊勢市）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	市内での創業や第二創業、市外から事業所移転を行う者にかかる創業・移転に必要な経費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】+15店舗/5年 【最新値】1店舗/5年（目標未達成） 計画期間中、延べ117件（区域内29件、区域外88件）が交付を受けて市内で事業を開始した。本補助金では、創業等支援分（工事請負費、設備費、マーケティング調査費、広報費）と賃料分（6か月分）を補助対象経費としている。
達成した（出来なかった）理由	本事業を活用した新規出店数自体は多くあったが、5商店街内における新規出店数は、まちづくり株式会社が実施する「商店街空き店舗対策支援事業」による支援があるため、本事業を活用した商店街等への新規出店者数が少なくなったと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	計画期間中の新規出店数について、5商店街においては1件に留まったものの、中活区域内においては29件の申請があり、区域内における創業促進・経済発展に寄与したと考えられる。
事業の今後について	新規出店数は中活区域内で年平均約6件あった。引き続き制度の周知を行い、創業を促進するとともに、中活区域全体の賑わい創出、経済の発展に寄与していく。

③. 商店街空き店舗対策支援事業（伊勢市、伊勢まちづくり株式会社）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	商店街等が区域の不足業種やニーズに適う業種を空き店舗に誘致する事業、空き店舗を市民に開放し、ギャラリー等として活用する事業に対して、まちづくり会社が補助をする。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	新規出店数 【事業目標値】 30 店舗 【最新値】 21 店舗（目標未達成） （空き店舗出店促進事業補助金の 5 年間の利用実績：新道商店街 6 件、伊勢市駅前商店街 2 件、高柳商店街 6 件、浦之橋商店街 1 件、外宮参道 5 件、河崎本通り 1 件、合計 21 件）
達成した（出来なかった）理由	目標値を設定した際の見込み（事業目標値）を下回っている。年間 6 件の補助金利用を見込んでいたが、出店希望者は一定数あるものの貸せる空き店舗が増えないことが要因の一つと考えられる。また、令和 5 年度に空き店舗所有者の支援を創設したが、利用件数は 3 件に留まっており、「貸す相手が見つからない中で自己資金（1/3）を捻出して改修したくない」と「空き店舗兼住宅の住宅部分に所有者又は所有者の親族が住んでいないため対象外」が申請への大きな課題となった。
計画終了後の状況及び事業効果	「新規出店数」の目標指標には、当事業の減少が足を引っ張る形となった。しかし、補助金自体の周知は図られ、初めて利用する商店街があったほか、新たに補助対象となる団体が設立されるなど、活性化が見受けられた。
事業の今後について	各商店街等とともに空き店舗への出店誘致に努めるほか、空き店舗を貸出ししていない所有者には、一部要件の緩和を行い、「貸せる空き店舗」の創出に向けた働きかけを継続していく。

④. 商店街等振興対策事業【再掲】（伊勢市、伊勢まちづくり株式会社）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	消費者に魅力ある商店街づくりのために行う事業に対して補助をする。また、中心市街地において商店街等が行うイベント等を、伊勢まちづくり株式会社が情報発信する。さらに、商店街等における歩行者通行量調査について、AI カメラを活用した実証実験を行い、得られたデータを分析活用するとともに、その効果を検証する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和 2 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】－ 【最新値】－ 商店街等が実施するイベント事業等に対する「商業まちづくり補助金」の 5 年間の交付実績は、新規 7 件、継続 10 件であった。AI カメラ事業については、4 箇所（伊勢市駅前、外宮参道、高柳、新道）で歩行者通行量を計測し、データを毎月、各商店街と共有、通常時及びイベント開催時の歩行者通行量や年齢層、性別などのデータを収集・分析して商業活性化に向けた検討材料とし

	て活用した。
達成した（出来なかった）理由	補助金の利用件数が年々減少している原因には、商店街組織の弱体化、財務状況の悪化があるが、AIカメラ事業によって歩行者通行量が詳細に数値化され、事業再編により費用対効果の低いイベントの廃止などが進んだことも要因の一つと考えている。
計画終了後の状況及び事業効果	商店街によるイベント開催は、商店街の魅力発信に繋がっているが、新規出店に繋げることができなかった。また、商店街でのイベント数も減少傾向にあることから、目標指標の達成には大きく寄与したとは考えていない。しかし、AIカメラ事業によるイベント効果の「見える化」によって商店街の意識改革は進み、今後はデータを活用した出店者誘致が可能になったと考えている。
事業の今後について	当該事業は今後も継続するが、効果を検証する中で補助金要件の見直しを行い、商店街が進める「消費者に魅力ある商店街づくり」を支援する。

⑤. 商業魅力アップ支援事業（伊勢市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	地域住民や観光客のニーズに応えた商業環境の整備や賑わいの創出に新たに取り組む商業団体等に対して、事業費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 － 【最新値】 － 計画期間中、中心市街地において7団体、延べ13件の支援を行った。
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の収束や神宮式年遷宮を見据え、本補助金を活用した情報発信や環境整備等が積極的に行われたと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	各団体が認知度向上のための情報発信や環境の整備など活性化に向けた賑わい創出する活動に対して支援を行ったことで、中心市街地の経済発展に寄与したと考えられる。
事業の今後について	引き続き賑わい創出等に取り組む市内商業団体へ補助し、中心市街地の経済発展に寄与していく。

⑥. 伊勢市駅前商店街活性化事業【再掲】（伊勢市駅前商店街振興組合）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	組合活動と商店街地区活性化のため、組合の既存ビジョン・プランの更新、市街地再開発事業の事業者との連携を継続することで、伊勢市駅前の新たな賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 +7店舗（しんみち未来創造事業・繋ぐ高柳希望の風事業と合算） 【最新値】 -1店舗（目標未達成） 新規出店数の最新値は3店舗（当商店街、高柳商店街、新道商

	店街)で合計35店舗となり、平成27年～令和元年度の36店舗から1店舗減少した。しかし、当商店街単体の最新値は17店舗であり、2店舗増加している。
達成した(出来なかった)理由	当商店街における新規出店数の増加は、伊勢市駅前B地区の本格稼働に合わせ、空き店舗誘致を積極的に推進したことが要因の一つと考えている。
計画終了後の状況及び事業効果	目標指標の達成には、当商店街の17店舗の出店が大きく貢献し、目標達成したと考えられる。 また、伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業と合わせて「まちなかウォークアブル事業」などを中心に活動を行い、商店街の魅力向上に努めた結果、当商店街のAIカメラによる年間歩行者通行量は、夜の通行量を中心に増加傾向にあることから、当商店街の活性化は進んでいると考えられる。
事業の今後について	まちなかウォークアブル事業を継続して進めていくため、パークレットの増設や新規イベントの開催により、さらなる新規出店誘致に努めていく。

⑦. しんみち未来創造事業【再掲】(伊勢銀座新道商店街振興組合)

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	商店街の将来像を定めた既存ビジョンの更新、またこれに基づいた組合事業を継続し、複数ある空き店舗の削減、来客数の増加を目指し、商店街の魅力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	新規出店数 【事業目標値】+7店舗(伊勢市駅前商店街活性化事業・繋ぐ高柳希望の風事業と合算) 【最新値】-1店舗(目標未達成) 新規出店数の最新値は3商店街(当商店街、伊勢市駅前商店街、高柳前商店街)で合計35店舗となり、平成27年～令和元年度の36店舗から1店舗減少した。また、当商店街単体の最新値は8店舗であり、8店舗減少している。
達成した(出来なかった)理由	当商店街における新規出店数の減少は、店舗・住居一体型の建物が多く、空き店舗であっても貸出しや売却する家主が増えないことが原因であると考えられる。所有者型の空き店舗補助金も周知しているが、利用者はなく、改善には繋がらなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	当商店街は貸せる空き店舗の創出が進まず、8店舗減少したことで、目標指標の達成には寄与できなかった。 しかし、新規ホテル開業時から18時台～23時台でのAIカメラによる歩行者通行量が増加しており、データに基づいて夕食提供店舗を誘致できたことは当事業の効果であったと考えている。
事業の今後について	「伊勢新道しんみち商店街未来ビジョン」を更新し、商店街の魅力向上のための新たな事業を計画し、人が集い、憩える空間を確保し賑わいを創出していく。

⑧. 繋ぐ高柳希望の風事業【再掲】（伊勢高柳商店街振興組合）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	平成 30 年に発生した商店街中心部の火災事故跡地である被災空地の利活用を主として作成した商店街ビジョンをもとに、被災空地活用の事業検討、減少する組合員数、増える空き店舗等の課題へ取り組み、100 年以上の歴史をもつ商店街を次世紀へと繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】+7 店舗（伊勢市駅前商店街活性化事業・しんみち未来創造事業と合算） 【最新値】 -1 店舗（目標未達成） 新規出店数の最新値は 3 商店街（当商店街、伊勢市駅前商店街、新道商店街）で合計 35 店舗となり、平成 27 年～令和元年度の 36 店舗から 1 店舗減少した。しかし、当商店街単体の最新値は 10 店舗であり、5 店舗増加している。
達成した（出来なかった）理由	当商店街における新規出店数の増加は、空き店舗誘致を積極的に推進し、空き店舗出店促進補助金の利用に繋がったことが要因の一つと考えている。
計画終了後の状況及び事業効果	目標指標の達成には、当商店街の 10 店舗の出店が大きく貢献した。しかし、店舗・住居一体型の建物が多く、貸出しや売却する家主が増えないことが課題として残っており、今後は「貸せる空き店舗」の創出が必要である。
事業の今後について	商店街の歴史を繋ぐべく、「高柳の夜店」を継続して開催するほか、居心地が良く歩きたくなるまちづくりを目指す「まちなかウォークブル」を進めるため、商店街所有地と隣接する公園を一体的な活用を目的とした整備を進め歩行者通行量の増加、「貸せる空き店舗」の創出に努めていく。

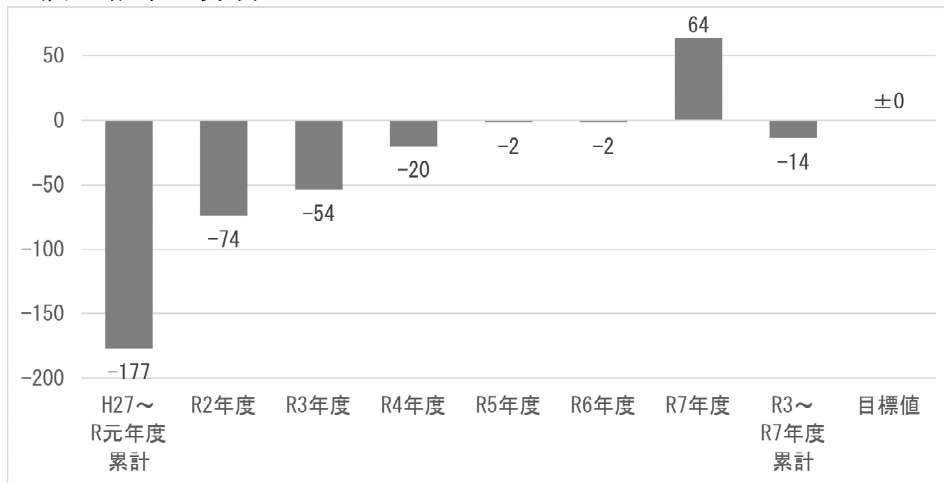
●今後の対策

目標は達成したものの、店舗の継続・定着が重要であるため、今後は出店後の経営フォローアップを強化する。また、引き続き創業支援制度を運用するとともに、商店街主体の空き店舗解消活動の支援を進める。特に、廃業に伴う店舗の減少を抑制するため、店舗の次なる担い手へ繋ぐ情報提供や、貸出しの障壁となっている「住居と店舗の入り口分離改修」に対する補助の活用を推進し、商業機能の維持に努める。

(3) 「人口の社会増減」(目標の達成状況【 B1 】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P85～P87 参照

●調査結果と分析



年度	(人)
H27～R元年度累計	-177 (基準値)
R2	-74
R3	-54
R4	-20
R5	-2
R6	-5
R7	64
R3～R7	-14 (累計)
R3～R7	±0 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：令和6年4月～令和8年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域内

〈分析内容〉

計画期間(R3～R7年度)の社会増減累計は14人の減少となった。目標値(±0人)にはわずかに届かなかったものの、基準値(-177人)から大幅に改善され、基準値から目標値までの幅の8割のライン(-35人)を上回る結果となった。特に、令和7年度の単年度では64人の増加を記録しており、これは令和8年2月に竣工したC地区分譲マンションへの入居が3月から開始されたことが極めて大きく影響していると考えられる。再開発事業による居住促進の効果が明確に数値として現れ、社会増への転換を決定づける形となった。なお、累計で微減となった要因については、再開発による大幅な転入の一方で、既存市街地における構造的な転出が継続したことなどが積み重なった結果であると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業【再掲】(民間事業者)

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	伊勢市駅前地区の再開発事業により、商業・住宅などの都市機能の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(国土交通省)(令和2年度～令和7年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】+140人 【最新値】- 再開発ビルが立地している伊勢市駅前商店街の歩行者通行量は平成30年の799人から301人減少し、目標値を大きく下回っている。また、新規出店数は最新値では0店舗となっており、目標値を下回っている。
達成した(出)	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和8年2月に分譲住宅

来なかった)理由	が完成し、全戸が完売した。 当事業による居住人口は、全 102 戸の完売によって 230 人が入居予定である。内、140 人が中心市街地外から移住予定と考えている。
計画終了後の状況及び事業効果	目標指標には、分譲住宅の完売が大きく貢献したと考えている。 今後は住民の入居が進み、5 店舗も順次開店するため、目標指標に貢献していくことが期待される。
事業の今後について	当該事業は完了。

②. 空家対策事業 (伊勢市)

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	移住者等を対象とした空き家の活用促進を通じて、空き家の再利用と移住者等の定住による人口増を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	<p>【事業目標値】 +20 人増加/5 年（空家総合事業、木造住宅耐震補強等事業と合算）</p> <p>【最新値】 +1 人/5 年</p> <p>空家バンク登録件数：市内全体 157 件/5 年 うち中心市街地 6 件</p> <p>空家バンク成約件数：106 件/5 年 うち中心市街地 2 件※非住宅</p> <p>空家リフォーム促進事業（令和5年度から） 補助件数：18 件/3 年（うち中心市街地 1 件）、 空家購入促進事業（令和6年度から） 補助件数：21 件/2 年（うち中心市街地 1 件）中心市街地の居住人口の社会増 1 人増加となった。</p>
達成した（出来なかった）理由	空家バンクについては、空き家所有者が民間サービスによる仲介を優先的に選択されたこと、空家リフォーム促進事業及び空家購入促進事業については、事業開始後間もないことや、駐車場スペースなどのニーズを満たす物件が他の地域に比べ少なかったことなどが、市の制度の活用が進まなかった要因と考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	空家バンクによる空き家の利活用、また空家リフォーム促進事業補助金及び空家購入促進事業補助金の交付により、都市機能の強化及びまちなか居住の促進に寄与している。
事業の今後について	チラシ等による空家バンク登録の促進及び空家リフォーム促進事業補助金、空家購入促進事業補助金の周知啓発を行い、空き家所有者等の利活用に関する意識の向上及び空き家の再利用の促進を図っていく。また、移住希望者及び不動産関係団体に対しても周知を行っていく。

③. 空家総合事業 (伊勢市)

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	空き家の適正管理の周知、実態調査、危険空き家の除却推進等、

	計画的な空き家対策を推進する。
国の支援措置名及び支援期間	空き家対策総合支援事業（国土交通省）（令和2年度～）
事業目標値・最新値及び達成状況	<p>【事業目標値】 +20人/5年（空家対策事業、木造住宅耐震補強等事業と合算）</p> <p>【最新値】 —</p> <p>危険な空き家の除却補助：20件/5年（うち中心市街地7件）</p> <p>管理不全空き家の管理依頼対応：3,454件/5年</p> <p>固定資産税納税通知書等へのチラシ同封による空き家適正管理に関する広報周知の実施</p>
達成した（出来なかった）理由	空き家の適正管理の周知・啓発及び管理不全な空き家の管理依頼や、危険な空き家の除却の推進は、大きな居住人口の社会増に繋がっていないものの、既存住民の定住意欲の維持に寄与し急激な社会減を抑制していると考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	空き家の適正な管理を促すことや危険な空き家の除却を推進することは、良好な生活環境の維持と安全・安心なまちづくりを通じて、住民が愛着を持ち住み続けたいと感じる基盤を整えることで、都市機能の強化とまちなか居住の向上に繋がっている。
事業の今後について	今後も、空家法及び第2期伊勢市空家等対策計画に基づき、管理不全な空き家の所有者に対し管理依頼を行い、改善を求めるとともに、老朽化した危険な空き家について早期除却を促進することで都市機能の強化及びまちなか居住の向上を図っていく。

④. 木造住宅耐震補強等事業（伊勢市）

事業実施期間	平成21年度～【実施中】
事業概要	木造住宅の居住安全性の確保あるいは除却を通じて、まちなかの居住環境の向上に寄与する。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（住宅・建築物安全ストック形成事業）（国土交通省）（平成28年度～）
事業目標値・最新値及び達成状況	<p>【事業目標値】 +20人/5年（空家対策事業、空家総合事業と合算）</p> <p>【最新値】 —</p> <p>第2期計画における交付実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 木造住宅無料耐震診断 区域内180件、区域外939件 耐震補強工事補助金 区域内4件、区域外34件 空家除却補助金 区域内97件、区域外572件 <p>耐震性のない木造住宅について、耐震補強工事や空き家の除却工事が促進されたことにより、地域の安全性の向上に繋がった。</p>
達成した（出来なかった）理由	事業目標を達成できなかったものの、区域内の耐震化意識を高め、住環境が改善されたことにより、定住意欲が増進され人口流出の削減に寄与したと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	都市機能の強化とまちなか居住環境の向上に繋がっている。
事業の今後について	今後も引き続き、昭和56年5月31日以前に着工された木造住宅の所有者に対して戸別訪問を行い、地震の危険性や耐震化支援制

	度の案内を行うことで、耐震対策を促進する。 耐震診断が完了した木造住宅のうち、耐震補強工事や空き家除却工事が未実施となっている住宅の所有者に対して、実施を促すために、電話・訪問等による働きかけを行っていく。
--	--

⑤. まちなか移住創業促進事業（伊勢市中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	伊勢市・商工会議所・まちづくり会社等の関係機関が連携し、主に市外、県外からの移住希望者を対象に、創業、就業、子育て支援等施策の PR や企画の検討、実施を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	中心市街地の居住人口の社会増 【事業目標値】 +12 人（移住者） +5 人（大学生） 【最新値】 — 伊勢市・伊勢商工会議所・伊勢まちづくり(株)が出席する「移住創業促進会議」を月 1 回の頻度で実施。伊勢市による移住相談会の開催、移住パンフレット、移住動画作成に繋がった。
達成した（出来なかった）理由	当事業では移住にかかる連絡、調整、会議を行っているが、予算の関係から事業を実施することができず、伊勢市が実施する事業への協力に留まった。
計画終了後の状況及び事業効果	移住創業にかかる事業に対して意見交換、情報共有が行われ、各団体による事業実施に繋がったことは、「中心市街地の居住人口の社会増」の目標指標に対し、間接的に貢献したと考えている。
事業の今後について	各団体の連携を維持し、各々が取り組むまちなか定住に関連する施策、事業の情報共有・意見交換を行うため、移住創業促進会議を継続し、各団体の創業、就業、子育て支援等施策に繋げる。

⑥. 店舗新築・住宅等リフォーム促進事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	住宅や店舗のリフォーム・増改築及び店舗の新築を行う場合に、その工事費用の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 — 【最新値】 — 住宅リフォーム促進事業補助金交付件数 【計画期間中（R 3～R 7）】 市全体：1165件、中心市街地活性化区域内：109件
達成した（出来なかった）理由	区域内の住宅改修意識を高め、住環境が改善されたことにより、定留意欲が増進され人口維持に寄与したと考えられる。
計画終了後の状況及び事業	補助件数が多くあったことから、本補助金によって、住宅改修の意識高揚に繋がったと考えられるため、引き続き支援を行って

効果	いく。
事業の今後について	今後の住宅施策を進めていく中で、区域内の住宅事情の動向を注視して、中心市街地の人口維持に働きかけるような施策の方針の見直しを検討し、まちなか居住の促進を図る。

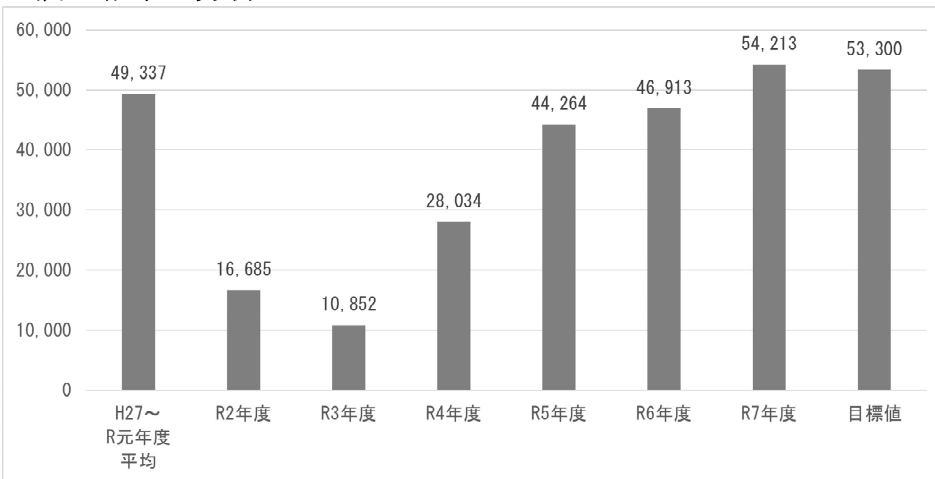
●今後の対策

今後は、都市部の移住検討層へ向け、地域の暮らしの魅力を戦略的に発信することで、新たな人の流れを作り、まちなか居住を促進し人口増を図る。また、既存の住宅ストックの適切な管理により、良好な住環境を維持しつつ改修費用の負担軽減を図る支援を組み合わせることで、子育て世帯等の住み替えや定住を後押しする。さらに、住まいと働く場を一体的に捉えた支援や、二地域居住などの多様なライフスタイルに対応したコミュニティ形成を推進するなど、転入者が地域の環境にスムーズに馴染める仕組みを構築し、持続的な社会増への転換と地域経済の活性化を目指す。

(4) 「観光関連施設等の利用者数」 (目標の達成状況【 A 】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P87～P90 参照

●調査結果と分析



年度	(人)
H27～R元	49,337 (基準値)
R2	16,685
R3	10,852
R4	28,034
R5	44,264
R6	46,913
R7	54,213
R7	53,300 (目標値)

※調査方法：観光統計

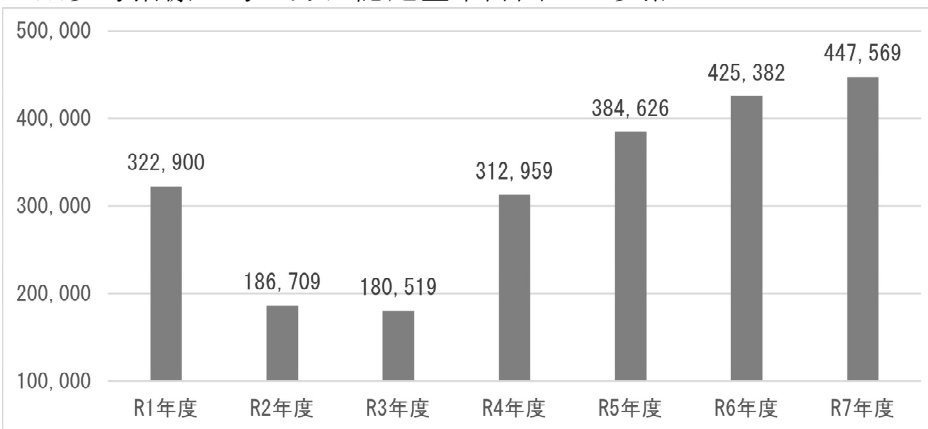
※調査月：令和7年1月～令和7年12月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域内の観光関連施設の利用者

【参考指標】中心市街地内宿泊施設の宿泊者数

※参考指標の考え方は認定基本計画 P90 参照



年度	(人)
R1	322,900
R2	186,709
R3	180,519
R4	312,959
R5	384,626
R6	425,382
R7	447,569

※調査方法：宿泊施設へ聞き取り

※調査月：令和8年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域

〈分析内容〉

観光関連施設等の利用者数は 54,213 人となり、目標値 (53,300 人) を達成した。

第 63 回神宮式年遷宮の諸祭・諸行事が始まり、メディア等での露出が増加したことで、来訪者の関心が高まったことが要因のひとつと考えられる。特に伊勢市駅手荷物預かり所の利用が顕著に増加しているほか、外宮前での観光案内人の利用も新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にある。また、中心市街地の宿泊施設の増加に伴い宿泊者数が増加したことも、施設利用者の底上げに寄与したと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 伊勢神宮奉納全国花火大会（伊勢神宮奉納全国花火大会委員会）

事業実施期間	昭和 28 年度～【実施中】
事業概要	全国各地から選抜された花火師たちが神宮に花火を奉納し、日頃の研鑽の成果を神都伊勢の夜空に放揚する「伊勢神宮奉納全国花火大会」を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 53,300 人（他事業と合算） 【最新値】 — 新型コロナウイルス感染症の影響により令和 3 年度・4 年度中止、令和 5 年度再開。令和 7 年度の観覧者数は約 20 万人で同感染症以前の水準に回復。開催当日の伊勢市駅乗車数は 1 日平均の 5,412 人（中止期間を除く）を上回る 9,329 人、大会当日及び翌日の外宮参拝者数は、同月他週土日平均 5,993 人を上回る 11,026 人となった
達成した（出来なかった）理由	宿泊や滞在時間の延伸に繋がりやすい 3 連休の初日での大会の開催や、伊勢旅館組合と連携したツアー一席設置、周辺商店街の大会と連動したイベント開催などが、事業効果を高めたと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	伊勢神宮奉納全国花火大会の開催が人流を増加させており、周辺商店街が大会と連動したイベントを実施するなど、中心市街地の賑わい創出・活性化の波及効果があった。
事業の今後について	今後も継続して花火大会を開催し、官民双方で賑わい創出の効果が中心市街地へ波及するよう取り組み、宿泊促進や滞在時間の延伸、観光消費の増加を図っていく。

②. お伊勢さんマラソン（お伊勢さんマラソン実行委員会）

事業実施期間	昭和 57 年度～【実施中】（令和 2、3 年度は大会中止）
事業概要	マラソン大会（ハーフマラソン、5 キロ、ウォーク、バリアフリーラン）の開催により、市外・県外から多くの参加が期待できることから、中心市街地の賑わいの創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 53,300 人（他事業と合算） 【最新値】 — 令和 7 年度の大会は、総エントリー数 11,501 人、昨年度から 1,381 人増となった。 参加賞のお伊勢さんチケットは、中心市街地エリアの店舗において 35 件の利用があり、宿泊プランでの中心市街地の宿泊施設では 72 人の利用があった。
達成した（出来なかった）理由	市内外から 1 万人を超える参加があり、参加者を中心市街地エリアへ誘導することで賑わいの創出に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	以前から実施している宿泊プランに加え、お伊勢さんチケットの中心市街地エリア（外宮参道）への利用拡大、中心市街地への直通シャトルバスなど、大会参加者が中心市街地エリアの宿泊施設

	や店舗を利用することによるにぎわいの創出に寄与すると考える。
事業の今後について	今後も大会の新たな魅力の創出とおもてなしの充実を図ることで市外及び県外からの参加者数を増加させ、中心市街地エリアへの宿泊や飲食利用等を促すことで、中心市街地の賑わいの創出を図り、観光消費を上げていく。

③. 駅前等イルミネーション事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	伊勢市の玄関口に当たる宇治山田駅前広場や伊勢市駅、伊勢市駅前商店街にイルミネーションによる灯りの演出をする。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び達成状況	<p>【目標値】 53,300 人（他事業と合算） 【最新値】 －</p> <p>イルミネーション装飾日数 456 日間/5 年 内訳） 令和 3 年度 79 日間 令和 4 年度 79 日間 令和 5 年度 86 日間 令和 6 年度 105 日間 令和 7 年度 107 日間</p> <p>設置場所 宇治山田駅・伊勢市駅・伊勢市駅前商店街</p>
達成した（出来なかった）理由	秋・冬季のイベント等が集中する期間に限定してイルミネーションを装飾することにより特別感を演出し、中心市街地エリアにおける夜の魅力を創出したことにより、滞在時間の延伸及び周遊促進に繋がったと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	イルミネーションによる灯りの演出により、中心市街地エリアでの夜間の周遊促進、滞在時間の延伸などの効果があったと考えられる。
事業の今後について	今後も継続して、秋・冬季のイベント等の集中時期に限定したイルミネーションによる灯りの演出により、中心市街地エリアにおける夜の魅力強化を図ることで飲食店の周遊や宿泊等を促進し、滞在時間の延伸や観光消費を高めていく。

④. 公共交通機関とのタイアップキャンペーン事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	公共交通機関とタイアップし、旅行商品と連動させたポスター等を作成し、主要駅のポスター枠やデジタルサイネージ等に掲出する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】 +230 人（他事業との合算） 【最新値】 －</p> <p>旅行商品販売実績（伊勢市駅周辺宿泊プラン等）</p>

	<p>41,431 件/5 年 特典クーポン引換実績 14,624 件/5 年 東京駅等ポスター等掲出（東海旅客鉄道とのタイアップ） 毎年度 4～7 月頃・11 月～2 月頃の 2クール</p>
達成した（出来なかった）理由	販売実績等は新型コロナウイルス感染症の影響により一時落ち込み、同感染症の 5 類感染症移行後は回復傾向にあったものの、東海旅客鉄道の旅行商品販売方針の変更により、一部商品の販売実績が減少した。
計画終了後の状況及び事業効果	東海旅客鉄道とタイアップしたプロモーション及びクーポン事業などの実施により、駅を起点として中心市街地域内への観光客の流入を促し、区域内の賑わい創出・活性化に寄与した。
事業の今後について	今後も継続して事業を推進するとともに、公共交通機関利用者を対象とした期間限定のキャンペーンを実施するほか、新幹線とのセット商品や着地型の旅行商品の拡充を行うことにより、区域内回遊及び滞在時間の延伸を図る。 なお、今後は東海旅客鉄道の主力である新幹線の利用促進により、関連する旅行商品の販売実績は増加する見込みである。

⑤. 着地型旅行商品造成事業【再掲】（伊勢市）

事業実施期間	平成 17 年度～【実施中】
事業概要	事業企画、旅行商品造成及びその販売促進を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】+230 人（他事業との合算） 【最新値】－ 旅行商品販売実績（伊勢市駅周辺店舗クーポン等） 91,068 件/5 年
達成した（出来なかった）理由	旅行商品の販売実績について、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ時期もあったが、旅行需要が回復したこともあり、新型コロナウイルス感染症の影響前の水準に戻ってきている。
計画終了後の状況及び事業効果	クーポンなどにより中心市街地域内へ誘導することで、滞在時間の延伸に繋がった。
事業の今後について	今後も継続して事業を推進するとともに、遷宮をキーワードとした伊勢の歴史文化の意義理解に繋がるような旅行商品を造成し、区域内回遊及び滞在時間の延伸を図る。

⑥. ナイトタイムエコノミー推進事業（伊勢市観光協会）

事業実施期間	令和 3 年度～【実施中】
事業概要	夜間の地域経済を振興し、本計画地域において飲食業など夜間営業を行う業種へ新たな需要を喚起する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】53,300 人（他事業と合算） 【最新値】－ 夜の飲食店ガイドマップ「伊勢の夜」を観光案内所や旅館等で配

	布した。
達成した（出来なかった）理由	観光協会青年部が中心となり、毎年情報更新を行っているが、大きな予算を取れなかったことから、事業が限定的であった。
計画終了後の状況及び事業効果	AIカメラによる年間歩行者通行量では、伊勢市駅前商店街、新道商店街などで夜間の歩行者通行量は増加傾向にあり、宿泊者の夜の飲食店への誘導に寄与したと考えている。
事業の今後について	引き続き夜の飲食店ガイドマップを観光案内所等で配布し、中心市街地の夜間営業を行う飲食店への誘客を図る。

⑦. 文化資源保存活用事業【再掲】（伊勢市）

事業実施期間	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	「伊勢市全市博物館構想」に基づき、市全体を大きな博物館として捉え、全域に広がる博物館や自然・文化資産などを相互に連携させて有効活用を図る。各施設における企画展示や催し物の開催、季節に応じた見どころなどの情報発信、郷土資料館の整備などにより、誘客を図り、賑わいを創出するものであり、中心市街地の活性化に必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月） 中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和 6 年度～令和 7 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 230 人（他事業と合算） 【最新値】 — 無料入館チケット利用数 979 件/2 年 ※対象施設：賓日館、伊勢河崎商人館、尾崎峯堂記念館 事業実施期間：令和 6 年 2 月～令和 8 年 3 月 博物館スタンプラリー利用数 163 件/5 年 伊勢市歴史博物館整備 令和 7 年度～令和 8 年度 (令和 8 年 4 月 25 日開館予定)
達成した（出来なかった）理由	各施設の入館者は、新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行後は回復傾向にあるが、それ以前の水準には至っていない。また、無料チケットの配布や博物館スタンプラリーにおいてデジタル技術を活用したが、周知方法や利用フローの利便性向上に課題が残り、期待した効果を十分に発揮するには至らなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	博物館の VR 化によって、新規層の開拓及び体験の高度化を推進し、リピーターの確保に向けた基盤を整備した。 また、新たに整備した博物館では、デジタル技術を活用した没入展示や収蔵資料のデータ公開を通じて、来訪者の目的地となる魅力的な体験を提供するとともに、文化振興と観光情報の発信を両立する、中心市街地の新たな回遊拠点としての機能を確立させた。
事業の今後について	各博物館施設において、市民等に関心の高い催しの企画や、子供の施設利用を促す企画等、来館者の増加に繋がる取り組みを進めていく。 令和 8 年 4 月開館の伊勢市歴史博物館を中心に、文化観光の取り

	組みを進め、市民や観光客の周遊を促す。
⑧. 観光客への情報提供事業（伊勢市）	
事業実施期間	平成5年度～【実施中】
事業概要	「外国人観光客案内所」の認定を受けた観光案内所を年間365日開設し、観光客への適時適切な観光情報の提供を行う。中心市街地内にある外宮界隈の様々なお店で特典が受けられるクーポンの販売や、旅行商品のノベルティ交換の請負、レンタサイクルの貸出し等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】53,300人（他事業と合算） 【最新値】－ 案内件数：443,121件/5年 デジタルサイネージを活用した情報発信により、プッシュ型の観光案内を強化した。また、観光案内所では窓口案内やパンフレットの配布、電話による問合せ対応を通じて、市内を訪れる観光客に観光情報を提供するなど、多様な案内サービスを展開することで、観光客の需要に対し安定した対応を行っている。
達成した（出来なかった）理由	観光客のニーズをもとにした適時適切な観光情報の提供等を行うことで、区域内の回遊を促進し、滞在時間延伸に繋がった。
計画終了後の状況及び事業効果	観光案内所は地域の重要な観光交流拠点であり、インバウンド等を含めた多様な主体のニーズをもとにした適時適切な観光資源の案内や魅力ある観光情報の発信を行うことで、中心市街地内の回遊の促進や滞在時間の延伸に繋がっていると考えられる。
事業の今後について	今後も継続して、インバウンド等に対応した観光案内所機能を活かしながら、市内を訪れる観光客に対する新たなニーズに合わせた観光情報の提供、デジタルサイネージを活用した情報発信等により、さらなる中心市街地内の回遊促進や滞在時間の延伸を図っていく。
⑨. レンタサイクル事業（伊勢市観光協会）	
事業実施期間	昭和50年度～【実施中】
事業概要	公共交通での利便性が悪い中心市街地のエリアへの観光客やビジネス客の手軽な交通手段として、レンタサイクルを提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】53,300人（他事業と合算） 【最新値】－令和7年度の当事業利用者数は3,819人となり、第1期計画時の平均3,705人より増加した。
達成した（出来なかった）理由	伊勢市駅手荷物預かり所、外宮前観光サービスセンターで貸出しを行ったほか、新たに旅行会社等にて販売を開始したことが増加の原因である。
計画終了後の状況及び事業	「観光関連施設等の利用者数」の目標指標には、当事業の増加が少なからず貢献し、目標達成したと考えている。しかし、令

効果	和6年度から第63回神宮式年遷宮行事等に合わせ、他社の事業参入があり、当事業の利用者数は伸び悩んでいる。
事業の今後について	他事業者とも連携を図り、安心安全で利便性の高いレンタサイクルの利用環境の向上によって観光客の利便増進を図る。

⑩. まちなか案内事業【再掲】（伊勢商工会議所ほか）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	お伊勢さん観光案内人(商工会議所事業)、お伊勢さんまち歩きクーポン(まちづくり会社)等、地元住民から観光客まで、まちなかを案内するサービスを提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】+230人（他事業と合算） 【最新値】－ 令和7年度のお伊勢さん観光案内人利用者数は9,388人となり、第1期計画時の平均17,278人を大きく下回った。
達成した（出来なかった）理由	お伊勢さん観光案内人利用者数の減少は、集金拠点の問題から一部案内が再開できなかったことが原因である。 また、お伊勢さんまち歩きクーポン（お伊勢さんまち歩きチケット）はデジタル化したがる、新たなユーザー層の取り込みには至らず、中心市街地内にある歴史的資源・観光資源に関する情報も案内できなかった。じゃらん等の旅行代理店での販売が不可能となり、サービスの周知が進まなかったことが原因である。
計画終了後の状況及び事業効果	お伊勢さん観光案内人事業は、利用者の減少から目標指標達成に貢献できなかった。しかし、令和7年度からはオンライン決済システムの導入によって回復基調にあり、事業自体の業務効率化は進み、利便性は向上している。
事業の今後について	最新の需要を踏まえた事業計画の見直しにより、「中心市街地情報の案内」としての事業は終了し、「まちなか誘客事業」として継続することで利用者の中心市街地への誘客を図っていく。

⑪. 観光客受入推進事業（伊勢市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	伊勢市が、伊勢地域観光交通対策協議会及び三重交通と協働で、パーク&バスライド利用者を対象に、外宮前-内宮前間の路線バス無料利用券を配布する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び達成状況	【目標値】53,300人 【最新値】－ 計画期間中、本事業による外宮前-内宮前間の路線バス無料利用券の配布は実施しなかった。
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症拡大対策時における「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」の状況、また、同感染症の5類感染症移行後の中心市街地への人流回復の状況を鑑みて周遊

	促進施策に関し関係者で協議し、実施を見送った。
計画終了後の状況及び事業効果	本事業の実施を見送ったため、中心市街地への事業集客効果の発現は無かった。しかし、本事業ではないが、路線バスや繁忙期等のパーク&バスライド等による外宮周辺への利用者が増加しており、バス活用施策が中心市街地への集客に繋がっている。
事業の今後について	今後も引き続き関係機関と協議を行い、より効果的な受入れ方法を検討し観光客の中心市街地内の回遊促進や滞在時間の延伸を図る。

●今後の対策

今後は第63回神宮式年遷宮を見据え、来訪者が市街地内を周遊しやすくなるよう、観光案内の機能強化や手荷物預かりサービスの利便性向上を推進する。また、中心市街地活性化区域内の商店街や観光施設等と連携し、参拝後の滞在時間を延伸するためのソフト事業や、中心市街地活性化区域内の宿泊者をターゲットとした夜間の賑わいを促すソフト事業を重点的に実施することで、観光関連施設の利用者数の増加と、滞在型観光の促進を図る。

●令和7年度中心市街地活性化基本計画掲載事業として市が支出した補助金・負担金	
1 伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業	1, 133, 310, 000円
2 都市機能再生促進事業（伊勢市駅前地区）	19, 938, 200円
3 木造住宅耐震補強等事業	7, 365, 000円
4 空家対策事業	1, 000, 000円
5 商店街等振興対策事業	3, 930, 468円
6 商店街空き店舗対策事業	1, 354, 600円
7 商業魅力アップ支援事業	2, 155, 000円
8 店舗新築・住宅等リフォーム促進事業	697, 000円
9 創業支援事業	4, 432, 000円
10 伊勢のまつり開催事業	10, 540, 632円
11 ふるさと未来づくり事業	42, 097, 773円
12 伊勢神宮奉納全国花火大会	53, 000, 000円
13 集大会・スポーツ合宿誘致補助金（事業）	1, 827, 000円
14 伝統継承行事初穂曳実施事業	2, 400, 000円
15 お伊勢さんマラソン	25, 701, 442円
計	1, 309, 749, 115円

駐車場再編事業について

1 駐車場再編事業の変更内容

駐車場再編事業について、市営A・B駐車場(内宮前・宇治浦田・五十鈴川河川敷駐車場)整備と立体駐車場整備を分けて進めていく。

市営A・B駐車場に関しては、車番認証システムや事前精算システムの導入など駐車場機器類の更新等を行い、駐車場の維持管理・運営、周辺交通誘導等を含めて、官民連携により事業を実施する。あわせて駐車場料金の見直しを行う。

立体駐車場に関しては、市営A・B駐車場の再編による交通環境への効果を検証しながら、調査・検討・地元調整を図り、取り組んでいく。

全体概略図(変更後)

